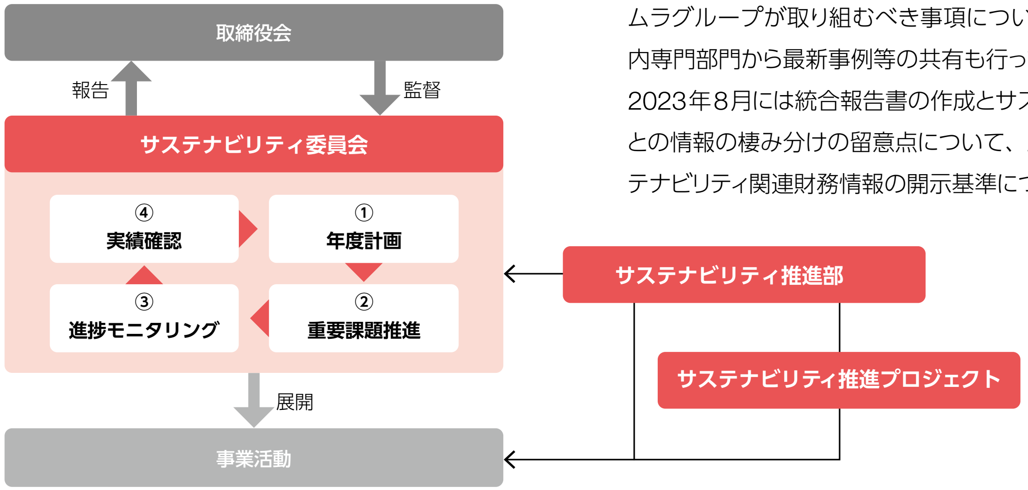
ガバナンス

オカムラグループでは、サステナビリティの取り組みを有効的に進めるためサステナビリティ委員会を設置しています。

サステナビリティ委員会、全社横断プロジェクト等の役割

代表取締役を委員長とし、各事業本部およびコーポレート部門を統括する執行役員により構成されるサステナビリティ委員会を設置しています。同委員会では、重要課題に係る年度計画を策定、審議・承認し関連部署への展開を図ると共に、重要課題に関するグループ全体の取り組みを推進・サポートし、進捗をモニタリングしています。また、気候変動リスクを含むオカムラグループのリスク全般（機会・脅威）について、経営・財務等への影響を考慮し現状リスクの再評価および新規リスクの抽出・評価を行うとともに、重要リスクの特定と見直しを行っています。



同委員会は年２回定期開催しており、審議・決議事項および活動結果について取締役会に報告し、取締役会において当該報告内容に関する管理・監督を行っています。

サステナビリティ推進部はサステナビリティ委員会の事務局として委員会の運営を行うとともに、承認事項について社内の各組織を通じて事業活動へ展開し、定期的にフォローを行っています。

また、全社横断のサステナビリティ推進プロジェクトにおいて、各事業本部の推進フォローおよび従業員への活動の浸透を図っています。

サステナビリティ委員会等でESG関連の最新事例の共有

サステナビリティ委員会では、ESGに関する最新情報やオカムラグループが取り組むべき事項について、社外有識者や社内専門部門から最新事例等の共有も行っています。

2023年８月には統合報告書の作成とサステナビリティレポートとの情報の棲み分けの留意点について、2024年３月にはサステナビリティ関連財務情報の開示基準について共有しました。

2023年度に実施した委員会等の内容

2023年	8月	統合報告書作成について
2024年	1月	令和６年能登半島地震の被害に対する支援について
	2月	CDP評価結果について
	3月	ESG債の発行について
		サステナビリティ関連財務情報の開示基準について
		カーボンニュートラル移行計画について
		重点対応リスクについて
		人権対応について
		社会貢献活動について

従業員巻き込み施策の展開

より積極的にサステナビリティ活動に取り組む従業員の育成に向けて、さまざまな施策を実施しています。

2023年度に実施した施策の内容

- サステナビリティ活動表彰（詳細 ▶ P.69）
- 従業員の意識や行動を把握するためのアンケート
- 手挙げ式研修・イベント
（詳細 ▶ P.16、▶ P.64～▶ P.65）
- サステナビリティに関するメール配信（月1回）

TOPICS

「知識・理解・体験」から次の「行動」を促す サステナビリティ研修in釜石・エヌエスオカムラ

サステナビリティをキーワードにした体験型研修

オカムラグループでは、サステナビリティの推進には従業員一人ひとりの意識向上と行動変容が重要だと考えています。参加者がサステナビリティというキーワードを通じてグループ会社を知り、仲間を知り、自然を体感する。各自の知識・理解・体験から、次のアクションを考えるきっかけとしたいーこのような目的で2022年度から始まった「サステナビリティ研修」。

2回目は2024年8月25～26日の日程で、オカムラグループの生産拠点の一つであるエヌエスオカムラ（以下NSO）がある「鉄と魚とラグビーのまち岩手県釜石市」で、オカムラの営業、生産、設計などさまざまな職種の従業員18名が参加し実施しました。

グループ会社や生産拠点を実際に訪れることはあまりないため、担当者同士が初めて会うなど交流の機会にもなっています。お客さまへサステナビリティの視点で提案をすることも多くなり、「SDGsについて理解を深め、自分の言葉で語りたい」という目的を持って参加したメンバーもいます。

研修の参加メンバー

漁船に乗り漁師さんからお話を聞く

グループ会社 エヌエスオカムラを知る

東日本大震災で被害にあったNSOは、震災翌年には操業を再開。多くの困難の中、塗装工程における新技術で平成28年度の「省エネ大賞」省エネ事例部門経済産業大臣賞（産業分野）と、環境省「循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰」で「3R活動優良企業」として受賞。現在この技術はオカムラグループ内で展開され、製造部門での環境負荷低減に大きな役割を果たしています。

製造部門と販売部門がこうした研修を通して相互理解をし交流することで、オカムラの強みである製販一体が活かされ一体感もさらに深まります。

「鉄」から学ぶサステナビリティ

NSOではスチール製品を製作しています。日々扱っている製品の「鉄」について、釜石の「鉄の歴史館」のエキスパートに講義をしていただきました。素材としての鉄を資源という視点で見るとまさにサステナブル。地球の重量の約30％を占め、他の素材と比較して安価。環境面では、鉄の製造時の温室効果ガス排出量はアルミニウムなどの4分の1程度でかつ何度でも生まれ変わることのできる素材です。鉄の歴史も含め、特性や魅力を改めて学ぶことができました。NSOの従業員も初めて知ることが多く、自社製品を見つめなおす貴重な講義となりました。

行動につながる「体感」と「共有」

研修では釜石という地域を知る漁業体験のプログラムも用意しています。オカムラグループに縁のある地域の課題や自然を知ることで、気候変動や労働人口減少などの社会課題にも目を向ける機会となっています。参加メンバー自らが体験を通じて得た学びをグループで共有しあうことで生まれる「行動変容」を促す研修を今後も積極的に実施していきます。

釜石鵜住居復興スタジアムにて

研修の最後にグループで発表